

# 1 子猫の適正譲渡

子猫の譲渡に関して、現在、全国の多くの自治体が熱心な取り組みを始めていますが、引取り・収容の数が多くにも関わらず譲渡希望者が少ないことや、感染症予防などの健康管理に子犬以上の注意が必要なことなど、課題が多いのが現状です。その中で、適正な譲渡を進めていくにはどうしたらいいのか、基本の流れから、特に配慮してほしいポイント、先進的な事例までを、紹介します。

重要なのは、単に譲渡数を増やすだけではなく、適正な譲渡を行い、地域の模範的な飼い主を増やしひいては行政に引取られる動物の数と、その殺処分数の減少につなげることです。各自治体の実情に合わせて、活用してください。

## 適正譲渡の流れ

### 引取り・収容

➡ P27参照



### 健康チェック・健康管理

➡ P28.29参照

子猫には、感染症が大きな問題となります。収容された子猫からの二次感染や施設内汚染の予防のために、隔離室を設ける、検疫期間を設けるなどの対策が重要です。各施設の実情に合わせた工夫を心がけましょう。

### 性格チェック

➡ P30.31.32.33参照

### 飼育中の管理（ケア）

➡ P34.35参照

### 社会化

➡ P36.37参照

収容中にどのようにケアされるかは、その動物が譲渡されるかされないかに大きく関わる非常に重要な要素です。手厚くケアされることで、健康で、性格も安定し、人に慣れ、より譲渡に適するようになります。特にシャイな子猫については、ゆっくりと時間をかけて、少しずつ人に慣らしていく必要があります。設備・人員・時間などに余裕がない状況でも、各施設ごとに、工夫をして、質の高いケアを心がけましょう。



### 譲渡者の募集

➡ P38.39参照

### 事前講習会

➡ P40参照

### 譲渡会

➡ P41参照

### マッチング

➡ P42.43参照

譲渡希望者と、譲渡候補動物を的確に組み合わせるのがマッチングです。マッチングは、人と動物双方が幸せ、かつ、快適に暮らすために、また譲渡後のトラブルを防ぐために非常に重要です。動物にもさまざまな性格があり、また譲渡先の家庭もさまざまですから、それぞれに適した組み合わせをするという観点で考えてみてください。たとえば、シャイな子猫には、賑やかな家庭よりも、ゆったりと静かに接してくれる落ち着いた家庭がいいのではないか、活発な子猫を留守がちな家庭で飼うのなら、兄弟同士2匹一緒に譲渡がいいのではないか、というふうに、ケースごとに考えてみてください。人と動物を的確に組み合わせることができれば、より良い譲渡になります。



## 譲渡

### 譲渡後の飼育支援

➡ P44.45参照

譲渡された後に、どのように動物を飼育するか、飼い主の責任は重大です。地域の模範的な飼い主となり、動物の適正飼育の見本となってもらうためには、折に触れての飼い主への普及啓発が必要です。不妊去勢手術の徹底はもちろん、室内飼育を指導する、トイレ問題へのアドバイスをするなど、事前講習会や、電話相談などで、何度もこまやかに伝えていきましょう。地域に責任ある飼い主が増えれば、それがひいては、収容され殺処分される動物たちの数を減らすことにつながるでしょう。

